

1 地域の特徴

谷汲村は濃尾平野の北西外縁に位置し、東に根尾川、西に飛鳥川が流れる山紫水明の地である。1200有余年の歴史を誇る名刹谷汲山華嚴寺、両界山横蔵寺がある。また、戦後、植林事業が熱心に行われたこともあり、昭和32年には天皇・皇后両陛下をお迎えして第8回全国植樹祭が、20年後には皇太子ご夫妻の行啓を賜って全国育林祭が行われた。先人が残した文化遺産を大切に守り伝える地域である。

谷汲踊は、昭和30年8月岐阜県重要無形民族文化財として指定を受けた。以来、全国各地への公演、万博、エキスポ祭、ベルサイユ祭、ニューヨーク日本の祭、日中青少年交流使節団、等の場で保存会の人達がこの由緒ある踊を演じた。また、平成3年度から保存会の協力により、次世代への文化の継承というねらいで谷汲小学校の谷汲踊が発足し継続してきている。

2 学校の概要と活動計画

(1) 推進地域の学校規模と主な体験活動

学校	学級数	児童数	主な体験活動
谷汲小学校	6学級	112名	生物飼育・観察活動、谷汲踊の継承活動
長瀬小学校	6学級	83名	生物飼育・観察活動(カワゲラウオッチング)、
横蔵小学校	4学級	24名	生物飼育・観察活動(ホタルの増殖・放流)、
谷汲中学校	6学級	119名	東海自然歩道の整備・自然観察(野生植物の図鑑作成)

推進地域では、恵まれた自然を活用した自然観察・保護活動が共通して実施されている。本校の自然体験活動では魚・貝類の希少種の確認が相次ぎ、また、農林水産省東海農政局の協力による水田型ビオトープの活用についても注目を浴びている。しかし、この発表では地域の伝統文化を学校教育の場で進めている事例として、谷汲踊継承活動を紹介する。

(2) 教育課程上の位置づけ

本校の体験活動の柱は、自然に関わる体験活動、文化や芸術に関わる体験活動である。どちらも、地域の特徴や教育力を積極的に活用するものである。特に、谷汲踊については、平成3年度より、特色ある教育活動の一つとして取り入れ、「谷汲小の谷汲踊」として地域文化の継承に努めている。

体験活動の教育課程への位置づけは、生活科や総合的な学習の時間(以後サンサントタイムと称する)と関連させるようにした。全活動をサンサントタイムに含むわけにはいかないが、学年によって重点とする体験活動を振り分け、サンサントタイムと体験活動が無理なくつながるように設定した。

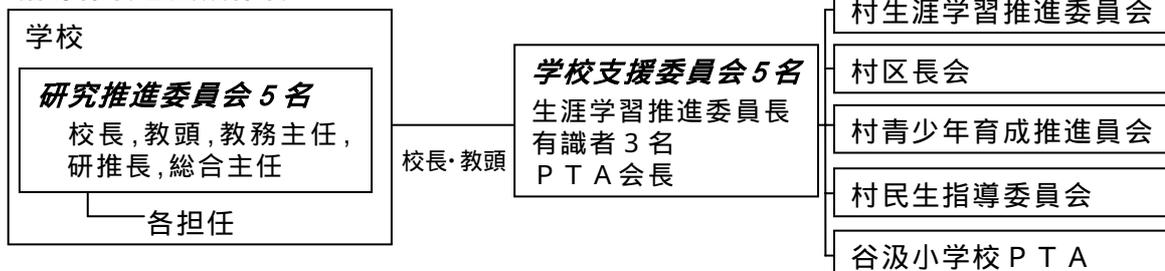
活動の種類	活動の概要	学年	学年ごとの活動内容
自然に関わる体験活動	<ul style="list-style-type: none"> 昆虫や魚・貝・植物などを観察採集し、名前や分布を調べまとめる。 河川や森林を調査観察し、クリーン作戦や植樹を進めたり、地域への呼びかけを行ったりするなどして環境保護活動を行う。 	3年	昆虫類全般の観察。
		4年	村の保護チョウであるギフチョウの飼育・観察と、森林観察。
		5年	河川調査の実施と、希少種の魚や貝の飼育・観察・保護。
文化や芸術に関わる体験活動	<ul style="list-style-type: none"> 平成3年度から行っている。谷汲踊の継承活動を進める。 太鼓踊を行っている郡内の他の小学校との交流を行う。 	5年 6年	谷汲踊のお囃子(縦笛)の継承。踊と鉦鼓・旗行進などの継承。谷汲踊の歴史や意味の調査。

(3) 6年生のサンサuntime年間計画

谷汲踊の継承を中核的に進めるのは6年生である。サンサuntimeの計画でも、児童たちの課題意識を尊重しながら、谷汲踊についての学習を位置づけた。谷汲踊を知り、谷汲踊を愛し、守り引き継いでいこうとする意識を高めていこうと考えた。

月	【ふるさと探検】(70時間)	他の活動(35時間)	国語科との関連	支援(家庭・地域)
4	<p>1. 昨年までのまとめをもとに地域の行事・遺跡・文化財などを探索する。(4)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 昨年のまとめから成果と課題を知る。 ・ 聞き取り調査やアンケート調査の項目を考え実施する。 <p>2. 交流会をしよう。(4)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地区毎に調べてきたことを交流し、昨年までの結果と比較する。 	<p>【菊作り】(10)</p> <p><5月~11月></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 挿し芽(2) ・ 小鉢植え替え(2) ・ 大鉢植え替え(2) ・ 菊の世話(2) ・ 施設訪問(1) ・ 後始末(1) 	<p><4月></p> <p>「十二歳の記録に残そう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1年間の見通しを持って作文計画をたてる。 <p><5月></p> <p>「養護の先生の話から」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の考えや疑問をはっきりさせて、話しの内容を予測しながら書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家庭や地域の人に活動の趣旨と協力の依頼を行う。(学校だより、PTA広報) ・ 4月の学級PTAで活動内容の説明と取材活動への依頼を行う。
5	<p>3. 課題をはっきりさせよう。(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 個人の課題・全体の課題を明確にする。 <p>4. 調査計画を立てよう(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 課題によりグループに分かれる。 ・ 調査内容、方法、準備等について確認する。 <p>5. 取材の準備をしよう。(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 取材に必要なものを準備し、アポイントをとる等、取材の日程を決める。 ・ 活動評価項目を考える。 	<p>【ALT】(9)</p> <p><2カ月に一度></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 英語を使ったゲーム ・ 外国文化の紹介 ・ 外国の生活の紹介 	<p><6月></p> <p>「資料を整理して」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 調べて作文にまとめる順序を考える。 <p><9月></p> <p>「班を代表して」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ メモに整理して発表する。 <p>「みんなで考えよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ コミュニケーションについての理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保存会の方など地域の文化を守る活動をしてみえる方に話を聞く。 ・ 寺院、名鉄線、門前の店、役場へ取材協力の依頼の手紙を書く。 ・ 取材活動に出かける前に必ず下見をして安全を確認しておく。
6	<p>6. 取材に出かけよう。(22)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各テーマ毎に取材活動をする。 <p>寺 谷汲踊 谷汲線 地蔵</p>	<p>【ふれあいの家・サービス訪問】(2)</p> <p><1・2学期に各1></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者とふれあい(1) ・ 介護体験(1) 	<p><10月></p> <p>「様々な表現に目を向けて」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 様々な表現方法を体験する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 取材活動の日程・活動場所等を事前に保護者に連絡し調査に参加してもらう。
7	<p>7. 結果を画面にまとめよう。(20)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ スタディーノートの画面構成を考える。 ・ 写真、表、グラフを効果的に使用し分かりやすくまとめる。 	<p>【エコタイム】(2)</p> <p><1・2学期各1></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校周辺の美化(1) ・ 通学路の美化(1) 	<p><1月></p> <p>「クラス討論会」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 理由や意図をあきらかにして話す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者や地域の方の感想等もまとめる。
9	<p>8. 報告会・発表会をしよう。(10)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 分かりやすい発表になるよう工夫する。 	<p>【谷汲踊】(12)</p> <p><5月~3月></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 踊りの練習・発表 ・ 5年生に教える 	<p><2月></p> <p>「敬語の使い方」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 相手や場において適切な言葉を使う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 取材活動へのお礼と報告会への招待状を書く。 ・ 講師・保護者・地域の方を招いて報告会を開く。
10	<p>9. 学習を振り返ろう。(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自己・相互評価をもとに話し合う。 			
11				
12				
1				
2				

(4) 指導体制と支援体制



学校支援委員会は、生涯学習推進委員長をはじめとする村内有識者により構成され、必要な講師の紹介や、全地区参加の河川クリーン作戦の展開、河川保護条例の起案などで、ご助言ご協力をいただいた。

3 活動内容

(1) 谷汲踊の継承活動の実際

谷汲踊の継承活動では、9月の運動会での上演が目標となる。この上演が終わると、6年生は、5年生に引き継ぐための交流練習を行う。さらに、4年生がお囃子の縦笛の練習で参加を始める。

地域講師は、保存会から講師を派遣していただき、5月から9月までの5回の練習で正しい踊を指導していただく。9月から4月までは、児童だけで笛の吹き方から太鼓の打ち方、足の運び方までを教えあう。教師自身も、それら全般について知っておく必要があり、前年度の高学年担任や教務主任、教頭などが支援する機会も多い。また、踊に使用するシナイ（7色の紙を貼った約3mの竹製の飾り）の補修は、主に4年生の役割となっている。

こうした学年による体験を通じた活動が、ある面では高学年への憧れや継承の自覚を育てている。近年は、民生児童委員大会や谷汲線廃線式、警察署出初め式、県青少年文化祭など、上演の機会に恵まれ、児童の意欲や意識を一層高めている。

(2) サンサントイムでの調査

6年生のサンサントイムでは、総合的な学習の時間のねらいを損なうことなく谷汲踊継承活動を組み入れるために、「谷汲村の文化と心を受け継ごう」というテーマを設定した。ウエビング手法で、個の課題を大切にしながら学級としての課題をまとめ、課題の類似する児童でグループを編成した。



上 保存会会員による指導
中 6年生による指導
下 4年生による補修作業

	グループ課題	主な学習内容	講師等
1	方言を調査する	やっとかめ、ひやこいなど	地域の高齢者
2	戸田氏栄の業績について調査する	ペリー来航時の浦賀奉行	地域講師
3	谷汲踊の歴史を調べる	武者踊、雨乞踊、谷汲踊の復活	保存会
4	廃線となった名鉄谷汲線	廃線の理由、歩み、思い出	旧名鉄職員
5	地蔵の種類やそのわけを調べる	道教え地蔵、重軽地蔵、六地蔵	地域の僧侶

保存会の会長宅を訪れ、谷汲踊を再興された思い、ご苦労等の話を伺った。会長は、戦争などの理由で途絶していた谷汲踊の復興を強く願い、私財を投げうって昭和27年には保存会を設立された。30年の県重要無形民俗文化財指定の立役者でもある。児童たちに、ぜひとも直接語りかけていただきたい方であった。

会長は、「地域の素晴らしい文化や伝統を復興し、谷汲を誇りに思う青少年を育てたかった。」といった願いを、笑顔で語っていただいた。

また、後日、副会長に保存会の倉庫を見学させていただき、シナイ扮装の様子、



会長に谷汲踊の話聞く

道具などの具体的な話を伺った。これらの学習活動から、児童たちは谷汲踊の歴史や伝統文化を保存していく大切なことを学習新聞にまとめた。

保存会のほら貝を吹く児童



(3) 郡内小学校との交流



北方小学校との交流

郡内には、本村の谷汲踊と類似したものがいくつかある。しかし、学校として継承活動を行っているところは他に揖斐川町立北方小学校一校しかない。サンサントイムで聞き取り調査を進めるうちに、北方小学校と交流したいという話になり、初めて互いの踊を上演し合う機会を持つことができた。互いの踊の歴史を説明したり、シナイの形や色紙、道具類、リズムなどの違いについて気づいたり、熱心に交流したりすることができた。

(4) 活動の評価について

サンサントイムでは、主な活動ごとに、学習で身につけた技能や知識を含めた自己の足あとを、ポートフォリオ評価によって累積している。また、年間20時間ほどを使って、コンピュータで学習した内容をホームページに掲載されている。これは、児童の名前や表情が特定できるため、一般には公開せず保護者のみパスワードを入れて閲覧できるようにしている。

谷汲踊については、一年間かけて練習を進めた成果を運動会で披露する。そこで、村長や村議会議長さんなどから賞詞をいただいたり、地域や保護者の方々から盛大な拍手や声援をいただいたりすることが、児童たちの活動の評価となり、また意欲を高めることにもつながっている。また2月には、生活科・サンサントイムの発表会を持つようにしており、保護者だけでなく、地域講師や関係機関の方々を招いて成果を発表する。発表会についての意見や講評は、学級通信などで公開している。

4 成果と課題

人口4,000人弱の過疎高齢化が進む村であり、本校は来年度には隣接小学校との統合が計画されている。112人という小規模校の経営にあたって、最も願うことは、全校児童が自信を持って表現する子になってほしいということである。確かな学力をつけるとともに、地域の大人たちに憧れ、村に誇りを持つことこそが、自らに自信を持つことにつながると考えている。



運動会での谷汲踊の上演

その意味で、この谷汲踊を継承する体験活動は、大きな成果をあげている。大勢の観衆の前で澆刺と踊る姿を裏打ちしているのは、児童が地域の人々の願いと苦勞を深く理解しているからであり、また地域や家族が期待し支えているからである。活発な児童の姿が、顕著な成果といえる。

課題として、サンサントイムのもう一つの柱である自然に関わる体験活動との兼ね合いがある。ここ数年の学習の進展によって、希少生物の存在が明らかになり、環境教育として充実し始めている。カワシンジュガイ、ホトケドジョウを始め、多数の希少生物の存在は、児童の学習意欲をかきたて、課題意識の質的な高まりが多様な学習方法も期待できる。限られた時間の中で、学年の発達段階をふまえながら、いかに学習を組み立てるかが本校の抱える大きな課題である。